

怨霊・怪異・伊勢神宮※目次

第一部 怨 霊

第1章 怨霊の思想……………三

はじめに……………三

一 早良親王の怨霊への対応……………五

二 仏教からの怨霊への理解……………一二

三 怨霊思想と死刑停止……………二〇

おわりに……………二五

第2章 怨霊への対処——早良親王の場合を中心として……………三二

はじめに……………三二

一 儒教的対応……………三三

二 神社での祈禱……………三五

三 名誉回復と墓の整備……………三七

四 仏教的対応……………三九

五 陵寺の建立……………四一

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・四三

第3章 怨霊から神へ——菅原道真の神格化——・・・・・・四六

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・四六

一 藤原広嗣と松浦廟・・・・・・・・・・・・・・・・四七

二 御霊神社と御霊会・・・・・・・・・・・・・・五〇

三 道真怨霊の誕生・・・・・・・・・・・・・・五四

四 二つの託宣と北野宮の創建・・・・・・・・五七

五 承平・天慶の乱後の神祇・・・・・・・・六二

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・六四

第4章 怨霊——『今昔物語集』の事例を中心に——・・・・六九

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・六九

一 『今昔物語集』卷二十七の構想・・・・・・・・七〇

二 「公」と霊・・・・・・・・・・・・・・・・・・七一

三 「武」と霊・・・・・・・・・・・・・・・・・・七四

四 生霊のあり方・・・・・・・・・・・・・・・・・・七六

五 国家的「怨霊」への対応・・・・・・・・・・七七

六 民衆レベルでの怨霊への対応・・・・・・・・八二

おわりに	八五
第5章 源頼朝の怨霊観	八八
はじめに	八八
一 頼朝の死	八九
二 崇徳院の鎮魂	九二
三 源義朝・平氏の鎮魂	九七
四 奥州藤原氏の鎮魂	一〇二
おわりに	一〇八
第6章 讃岐国における崇徳院伝説の展開	一一三
はじめに	一一三
一 半井本『保元物語』にみる崇徳院の配流先	一一四
二 崇徳院配流先の諸本による異動	一一八
三 直島に残る崇徳院伝説	一二七
四 崇徳院と三宅氏	一四一
五 坂出周辺の崇徳院伝説	一四七
おわりに	一四八

第7章 怨霊と怨親平等との間……………一五二

はじめに……………一五二

一 怨霊思想の変遷……………一五三

二 霊魂の顕彰……………一五九

三 慰霊の系譜……………一六五

おわりに……………一七〇

第二部 怪 異

第8章 鎌倉時代の怪異……………一七七

はじめに……………一七七

一 朝廷周辺の怪異……………一七八

二 幕府周辺の怪異……………一八一

三 戦乱と怪異……………一八六

四 怪異の否定……………一九一

おわりに……………一九六

第9章 平家物語・保元物語・平治物語の「怪異」……………二〇〇

はじめに……………二〇〇

一 將軍塚鳴動	二〇一
二 鳩の怪異	二〇五
三 自然災害	二〇六
おわりに	二〇九
第10章 怪異と穢との間——寛喜二年石清水八幡宮落骨事件——	二二二
はじめに	二二二
一 事件の発生	二二三
二 仗議	二二六
三 軒廊御卜	二二一
四 五体不具の穢	二二五
五 むすびにかえて——事件のその後——	二二七
第11章 親鸞における神と鬼神	二三三
はじめに	二三三
一 神祇不拝と諸神護念	二三四
二 親鸞の鬼神認識	二三九
おわりに	二四三

第12章 穢と不浄をめぐる神と仏……………二四六

はじめに……………二四六

一 清浄を尊ぶ神と仏……………二四八

二 『公7昔物語集』に見る「穢」……………二五一

三 慈悲行を優先する神……………二五九

四 浄土教における不浄認識……………二六二

おわりに……………二六二

第三部 伊勢神宮

第13章 伊勢神宮の中世的意義……………二六七

はじめに……………二六七

一 古代伊勢神宮における仏教の影響……………二六九

二 伊勢神道における仏教理解……………二七三

三 僧尼の伊勢参宮……………二七七

おわりに……………二八四

第14章 中世伊勢国における仏教の展開と都市……………二八八

はじめに……………二八八

一 『時衆過去帳』の分析	二八九
二 遊行上人廻国記事からの分析	二九三
三 律衆の展開	二九八
おわりに	三〇三
第15章 院政期の伊勢神宮と齋宮——怪異をめぐっての比較——	三〇六
はじめに	三〇六
一 建久九年の仮殿遷宮と怪異	三〇七
二 齋宮をめぐる事件	三一—
おわりに	三一四
第16章 室町時代伊勢神宮の怪異	三一六
はじめに	三一六
一 心御柱の違例	三一八
二 怪異の連鎖	三二六
三 怪異とその対処	三二八
おわりに	三三二

第17章 足利義持の伊勢参宮……………三三八

はじめに……………三三八

一 足利將軍の参宮……………三四〇

二 義持参宮の特徴……………三四二

三 参宮の実際——京から伊勢国へ……………三四三

四 伊勢参宮——宮川を越えて……………三四九

おわりに……………三五四

第18章 国阿上人の見た伊勢……………三五八

はじめに……………三五八

一 熊野……………三五九

二 伊勢神宮……………三六一

三 山田……………三六六

四 伊勢から京都へ……………三六七

おわりに……………三六九

第19章 室町時代の災害と伊勢神宮……………三七三

はじめに……………三七三

一 怪異・災害と遷宮……………三七四

二	十五世紀中葉の神宮と災害	三八三
三	明応地震における伊勢国の被害状況	三八七
四	明応地震の際の伊勢神宮の対応	三九〇
	おわりに	三九六
	初出一覧	
	あとがき	
	索引(人名・事項)	

第1章 怨霊の思想

はじめに

人は肉体に靈魂が宿ることによって生きているのであり、人の呼吸が停止して靈魂が肉体から離れていくことによって死を迎えると古代・中世の人びとは認識していた。通常死の場合、靈魂は墓にとどまったり、近くの山に上っていったりすることにより安住の地を得、穏やかな靈魂として子孫の繁栄を見守った。しかし、非業の死を遂げた場合、生前に抱いた怨念により靈魂は安住の地に行きつくことができずに、怨みを持つことになった地にとどまったり、空中を浮遊したりし、ときには非業の死を遂げることになった相手やその近親者に崇めて病を引き起こしたり死に導いたりし、さらには社会に天災や疫病を引き起こすこともあったが、そのようなときにその靈魂は「怨霊」として認識された。

天台座主慈円によって十三世紀初頭にまとめられた『愚管抄』巻第七には、怨霊について以下のように述べられている。

怨霊ト云ハ、センハタゞ現世ナガラフカク意趣ラムスビテカタキニトリテ、小家ヨリ天下ニモヲヨビテ、ソノカタキヲホリマロバカサントシテ、讒言ソラ言ヲツクリイダスニテ、世ノミダレ又人ノ損ズル事ハタゞラナジ事ナリ。頭ニソノムクイヲハタサネバ冥ニナルバカリナリ。

怨霊とは、現実世界において果たせなかった復讐を、冥界において実現するために登場する存在であって、相手を攻撃するだけでなく世の乱れをも引き起こす存在だと理解されていた。

「怨霊」の語の初見は、『日本後紀』⁽¹⁾延暦二十四年（八〇五）四月甲辰（五日）条で、早良親王の靈魂の慰撫をするために、諸国に小倉を建てて正税を納めさせ、あわせて国忌と奉幣の例に加えようとするが、それは怨霊に謝するためであったことを記している。

令⁽²⁾諸国「奉⁽³⁾為崇道天皇、建⁽⁴⁾小倉納⁽⁵⁾正税四十束、并預⁽⁶⁾国忌及奉幣之例、謝⁽⁷⁾怨霊⁽⁸⁾也、

早良は天平宝字五年（七六一）十一歳のときに東大寺等定僧都を師として出家し、神護景雲二年（七六八）大安寺東院に移住し、父の白壁王が即位（光仁天皇）すると、「親王禪師」と呼ばれ、東大寺造宮や寺務に携わった。そして天応元年（七八一）、兄の山部親王が即位（桓武天皇）すると還俗して皇太弟に立てられた。しかし、延暦四年（七八五）九月二十二日に起こった藤原種継暗殺事件に関与したとして廢太子とされ、乙訓寺に幽閉された。そして、朝廷から飲食を停止されるもの十余日耐え、淡路へ船で移送される途中、十月十七日に高瀬橋頭で亡くなったとされる。⁽²⁾そして亡骸はそのまま淡路に運ばれて埋葬された。

なお、藤原種継暗殺事件の経緯については、『続日本紀』には削除されている部分がある。これは当初は記載されていたものの、怨霊に関する記述を「正史」に記載するのを憚った桓武天皇の命によって削除され、種継の子である薬子・仲成が父の事蹟が埋没されたのを不満として復活させたが、さらに薬子の変によって薬子・仲成が失脚すると、嵯峨天皇は桓武天皇の遺志を重んじてまた削除した。⁽³⁾このように、怨霊を史書に記すことは、事件に関与した天皇にとっては、後世にわたって自らの非をさらすことになるため、記述されることを避けたかったのである。

早良親王以前の「怨霊」と、早良親王の場合とは、どのような点が共通していて、どのような点が異なってい

るのだろうか。このことを手がかりとして、奈良・平安時代における怨霊思想がいかにして形成されていったのか考察していきたい。

一 早良親王の怨霊への対応

早良親王の崇りが史料上はじめて記述されるのは、『日本紀略』⁽⁴⁾延暦十一年(七九二)六月癸巳(十日)条である。⁽⁵⁾

皇太子久病、ト_レ之、崇道天皇為_レ崇、遣_レ諸陵頭調使王等於淡路国、奉_レ謝_レ其_レ靈、

桓武天皇の子で早良親王にかわって立太子した安殿親王の病が、神祇官の「ト」により早良親王の崇りに起因するとされた。そのため使いが淡路国に遣わされて霊に謝することが行われた。

しかし、『日本紀略』延暦十一年六月庚子(十七日)条からは、延暦九年の段階ですでに早良親王の崇りが意識されていたことがわかる。

勅去延暦九年、令_レ淡路国_宛其_某親王崇道天皇、守冢一烟、兼随近郡司專_中当其_レ事、而不_レ存_レ警衛、致_レ令_レ有_レ崇、自今以後、冢下置_レ障、勿_レ使_レ濫_レ穢、

桓武天皇の勅により、淡路国に命じて早良親王の守冢を一烟置き、郡司に守衛を専当させたが、管理をしつかり行わなかったために崇りが起こったので、これより後は冢のまわりからほりを掘り、ケガレが伝染しないようにした。陵墓は神社と同様、清浄であることが旨とされるため、不浄な状態に曝されると崇りをなした。

陵墓の崇りはこの早良親王の例を嚆矢とし、怨霊の崇りが天皇・皇太子の病や火災などのかたちで発現したと認識されたため、崇りの主の「陵墓」を整備し手厚く祀ることでこれを鎮めようとしたとされる。⁽⁶⁾そして、これ以降「陵墓」と特定「陵霊」、すなわち「陵」主の霊との不即不離の関係が常態として確立したとされ、山陵の

あとがき

本書は『崇徳院怨霊の研究』（思文閣出版、二〇〇一年）出版以降に書いた怨霊・怪異・伊勢神宮に関する論考をもとに一書にまとめたものである。初出一覧を別に記したが、本書に収載するにあたって一部書き改めたものの、趣旨は変わっていない。この間『跋扈する怨霊』（吉川弘文館、二〇〇七年）を出版したが、研究書としては十三年ぶりということになり、改めて自らの歩みの遅さを痛感する。京都大学、筑波大学大学院での私の師たる先生がたが続々と研究書や一般書を出版されてきたのに比べ、分量といい内容といい圧倒的に劣るのは、自分の非力さ以外の何ものでもない。

私が伊勢神宮や熊野信仰に関する研究を行うようになったのは、三重県に住むことになったことによるものであり、そうでなければこうした研究は行っていなかっただろう。三重は奈良・京都・滋賀・和歌山にも近く、日本中世宗教史を研究するには絶好の地と言える。周辺の寺社をめぐるのは、私にとって至福の時間となっている。また、研究室からは時によって表情を変える伊勢湾を展望することができ、沼津の海を見て育ってきた自分にとって、心安らぐ場所となっている。この海がずっと穏やかであることを望むばかりである。

前著は博士論文をもとにまとめたものであるが、本書は一九九九年に三重大学人文学部に着任して以来、怨霊や怪異、伊勢神宮・石清水八幡宮・熊野三山・北野天満宮などについて行ってきた講義内容を論文に反映させている。教壇に立って話をしながら思いついたことも少なからずあり、未完成の話をがまんして聴いてくれた学生諸君にも感謝したい。近年はシラバスを厳密に書くことが要求され、実際に講義をする一年も前から内容について確定することが求められるが、黒板の前に立ってあれこれ考える私には不得手な作業である。かつ

て上田正昭先生は折口信夫先生の授業について話すことがあり、折口先生はメモ書きを見て考えながら講義をされ、あるときには今日の授業は失敗だったのですべて忘れて下さいと話したこともあったという。独創的な考え方はこうしたところから生まれるものと、自分の計画性のなさを正当化するために私はこの話を記憶にとどめている。

授業では「日本史」と銘打っておきながら、霊魂・怪異・崇りといったおおよそ高校までの教育ではなされることのない話をしているため、これが日本史なのかと高校を出たての学生はとまどっているのが通例である。日本史と言えば、天下国家について論じることが王道であり、事実、私が学生の時に「古代のトイレを研究したい」と言った学生に対して、ある教授はそうしたことを扱うのは日本史ではないと論じていた。それから二十余年経った今日、古代のトイレ研究は重要な研究テーマの一つとなっており、隔世の感がある。日本史の教科書には載っていないが、日本の領土および日本人（この概念も問われるべきであるが）に関して起こったあらゆる事象を日本史の研究対象とすべきであり、実際さまざまな研究が自由に行われるようになったことはよい傾向だと思う。私自身、奇をてらって霊魂について研究しているわけではなく、日本史上最重要課題という認識のもと研究に取り組んでいる。

日本史に関する論文が年間どれくらい発表され、本も何冊くらい刊行されているのかわからないが、歴史家の書いた歴史書は一般の人々にはほとんど読まれず、作家や評論家の書く日本史の方が圧倒的に発行部数が多く、興味もたれていることに関しては忸怩たる思いがある。そのため、厳密な史料解釈に基づかない結論が先に決まっている「歴史書」が幅をきかせ、社会をミスリードしていることは大変残念である。

この点について和田竜氏にうかがったことがあるが（和田竜×川上仁一×山田雄司 二〇一三年三月二日三重大学伊賀連携フィールド公開トークイベント「史実の魅力、小説の魅力——忍者小説の新たな地平——」吉丸雄哉・山田雄司・

尾西康充編『忍者文芸研究読本』笠間書院、二〇一四年）、脚本や小説を書く側としては、厳密な史料調査に基づいて研究者が書いた「正確な」歴史書が大変参考になり、そうした基礎的研究なくしては小説も荒唐無稽な現実離れた内容になってしまおうという。それはそれで納得できるのだが、他の分野に資するためだけの学問であつたのなら、歴史学の存在意義はほとんど失われてしまふのではないだろうか。

こうした状況は、昨今の大学における人文系学問の縮小とも連動していよう。後任ポストがなくなり、予算が削減されるなど、人文系学問に対する等閑視は目を覆わんばかりであるが、それを批判するだけではなく、時代に合わせた学問の転換も考えなければならぬのではないだろうか。今日の視点に立つて唯物史観を批判することは容易であるが、当時は社会が唯物史観を必要とし、今よりもずっと歴史学は有用の学問として認識されていたことは確かである。個別分散化し、総体の見えなくなった歴史学の行き着く先はどこなのであるうか。私自身有効な方策をもちあわせているわけではないが、常に学問の存在意義を考えながら研究を行つていきたい。

二〇一二年六月に三重大学・上野商工会議所・伊賀市との間で協定が結ばれ、「三重大学伊賀連携フィールド」が設置されて、私は忍者研究に関わるようになったが、この取り組みにより、研究内容や時間の使い方が大きく変わるようになった。「神社の研究から忍者の研究になった」と半ば冗談交じりに話しているが、忍者と中世の宗教的世界とがつながっていることがわかってきたことは私にとって大きな収穫である。これまでの研究の応用問題だととらえ、こちらの成果も今後発表して社会に少しでも貢献していきたい。

本書が完成するまでには、調査・研究会・講演などでさまざまな方にお世話になった。一人ひとりのお名前を記すことはできないが、本書を刊行することによりお礼に代えさせていただきたい。

なお、出版にあたっては、出版情勢の厳しい中、本書の刊行を快諾していただいた思文閣出版の原宏一氏に

感謝申し上げたい。原氏とは同じ研究室、同じサークルという大学時代からの縁であるが、今後も人文系学問を支える出版社としてがんばってもらいたい。

本書は「三重大学人文学部出版助成(二〇二二年度)」を受け、調査・研究を行った。関係の諸先生・事務の方々に感謝申し上げる。

二〇二四年四月

山田雄司

索引

【人名】

	324, 355, 362, 364, 365
	天穗日命 185
	アメワカヒコ 247
	奇子→多治比奇子
	綾高遠 114, 122, 123, 125, 127, 148
	荒木田氏経 344, 345
	荒木田興兼 375
	荒木田長久 385
	荒木田成長 279
	荒木田守朝 395
	荒木田守房 385
	荒木田行久 395
	安徳天皇 39, 91, 97, 158, 207~209
い	
	五百枝王 10, 39
	イザナギ(伊弉諾尊) 246, 247, 280
	イザナミ 246
	伊沢家景 107
	一条伊尹 77
	一条能保 99
	一色 354
	一遍 262, 282, 294, 358~362, 366
	伊東祐親 102
	稲毛重成 90
	井上内親王 8, 9, 16, 17, 24, 36, 38, 42, 43, 46, 50~53, 73, 156, 157
	伊予親王 11, 12, 16~18, 22~25, 40, 53
	忌部人上 7, 35
う	
	宇多院 72, 73
	味酒安行 55, 56
	卜部兼継 223
	卜部兼直 223
あ	
合鹿光生 353	
阿育王 100, 167	
悪路王 204	
アコノ局 364	
足利家 354	
足利尊氏 158, 340, 353	
足利直義 158	
足利義量 327, 342	
足利義勝 326, 327	
足利義教 345	
足利義政 344, 348, 352, 353	
足利義満 168, 339~342, 346, 347, 353, 364, 369	
足利義持 297, 321, 342, 343, 345, 347, 349, 352, 368	
アヂシキタカヒコネ 247	
飛鳥井雅縁 342	
安宿王 156	
安曇宗仁 57	
安殿親王 5, 6, 7, 11, 13, 14, 35, 39, 51	
安倍氏 208	
安倍貞任 103, 188, 206	
安倍晴明 36, 206	
安倍広基 207	
安倍宗任 206	
安倍泰貞 183	
安倍泰親 206	
天照大神 216, 268, 284, 302, 318, 322~	

卜部兼頼 223
雲林院 347

え

永観 260
叡尊 190, 298, 301, 302
慧達 53, 59, 157
円位 122, 124
円暁 94
円澄 18
延命 17
円融天皇 212

お

奥州藤原氏 104, 106~108
応神天皇 160
大炊王 16
大江氏 216
大江公朝 93, 98
大江親広 189
大江広元 187
大江匡房 216, 219
大河兼任 105
大友宗麟 168
大伴是成 7, 8, 36, 38
大伴家持 11
大中臣清忠 384, 395
大中臣隆通 190, 190
大中臣長照 321
大中臣宣経 223
大中臣通直 345, 352
大中臣盛家 308
大中臣諸魚 7, 35, 51
大野東人 47, 78, 80
大庭景親 102
大場景能 94
息長足姫命 49
小栗重成 106
長田忠致 98
他戸親王 9, 16, 42, 43, 50~53, 156, 157
織田信包 302
小槻隆職 310

首皇太子 50
小山朝政 91

か

覚乗 302
カグツチ 246
覚如 241, 242, 259
葛西清重 107
花山院家 346
花山院家賢 345
花山院長親 297, 342, 345, 346, 351, 368
勸修寺尚顯 393, 394
梶原景時 94
春日宮御宇天皇 38
数馬仲衡 146
勘解由小路(賀茂)在通 391
葛井王 8, 39
加大平三郎 347
鎌倉権五郎景政 94, 101
鎌田正清 98, 99
神野親王 12
龜山天皇 367
賀茂在貞 326
賀茂在富 329
賀茂重保 180
賀茂宣俊 221
烏丸局 93
河田次郎 103
桓武天皇 4~9, 11, 13, 14, 16, 17, 33, 34,
36, 38, 39, 41, 42, 51, 61, 201, 202, 216,
249, 250

き

木曾義仲 104
北出雲家 367
喜多源左衛門尉 367
北畠氏 348
北畠親房 159
紀蔭連 57
紀古佐美 7, 35
吉備泉 10, 39
吉備真備 27, 47, 48, 50, 78~80

黄文王 156
 景戒 21
 行教 212
 京極家 327
 京極高数 346
 京極持高 346, 347
 清原宣賢 183
 清原頼業 271, 339

く

空海 14, 15, 22~25, 27, 61, 160, 166
 公暁 183
 九条兼実 180, 207, 278
 九条道家 213

け

慶清 205
 繼体天皇 154
 源荣 358
 源氏 88, 92, 95, 99, 101, 206, 208, 209, 213
 賢俊 340
 玄奘 14
 元正天皇 248
 源信 260
 顕徳天皇 39
 玄昉 14, 15, 27, 47, 48, 77, 78, 80

こ

公顕 105
 孝謙天皇(上皇) 17, 42
 香西家資 145
 宏勝 17, 19
 光定 18, 54, 157
 光仁天皇 4, 9, 14, 33, 38, 42, 50, 51, 377
 光明皇后 78, 156, 363
 後龜山天皇 345
 国阿 295, 296, 302, 358~367, 369, 370
 後小松天皇(上皇) 343, 369
 後嵯峨上皇 195
 後白河天皇(院・法皇) 88, 92, 93, 95~
 98, 109, 114~116, 201, 205, 206

後醍醐天皇 90, 158, 159, 367
 木造氏 348
 後鳥羽天皇(院) 39, 85, 158, 165, 177,
 187, 242, 310, 314, 319
 後奈良天皇 331
 近衛政家 391
 後花園天皇 320, 322
 後深草院二条 280, 282, 351
 後堀河天皇 187, 228, 229
 後村上天皇 159, 345
 惟康親王 108

さ

西行 117, 122~124, 147, 312, 313
 最澄 14~16, 18, 19, 24, 25, 27, 41, 54,
 157, 166
 最鎮 60
 酒井忠清 146
 坂十仏 368
 嵯峨天皇 4, 12, 20~25, 40, 377
 坂上田村麻呂 185, 202~204
 坂上又子 6, 34
 讃岐院 122, 123, 125
 早良親王 4~14, 16, 23, 26, 27, 32, 33, 35
 ~44, 46, 50~53, 69, 73, 79, 80, 85, 156,
 157, 249, 250
 三条西実隆 393, 394

し

慈恵 83
 慈円 3, 158, 208
 重明親王 62
 重仁 128
 重丸 138, 140, 142
 司馬江漢 164
 斯波氏 320
 柴山清風 170
 鳥津義久 168
 鳥津義弘 168
 志水義高 102, 104, 105
 下毛野敦行 253, 254
 下野局 94

寂然	114
肅子内親王	314
俊源	213
惇子内親王	313
順徳天皇(院)	39, 158, 165, 187
淳和天皇	24
淳仁天皇	9, 16, 26, 38, 42, 156, 165
勝円	188
貞慶	236
称光天皇	343
章実	126, 127
祥子内親王	367
称城王	8, 39
浄蔵	73
成朝	99
聖徳太子	17
称徳天皇	26, 166
聖武天皇	17, 21, 22, 27, 48, 50, 78, 81, 156, 248
白河天皇	312
真教	282, 283, 289, 297, 350, 362, 363, 368
神功皇后	49
真盛	294, 297
信西	128, 132
親鸞	160, 191~194, 196, 233, 234, 236, 237, 239, 240, 242, 243, 262

す

垂仁天皇	153
崇伝	163
菅原氏	60
菅原道真	44, 46, 47, 54~64, 73, 85, 157, 170
資忠王	364
朱雀天皇(上皇)	58, 166
崇道尽敬皇帝	9, 38
崇道天皇	8, 10~12, 16, 18, 22, 24, 25, 36, 38, 40, 41, 43, 51, 53
崇徳天皇(院)	36, 39, 54, 79, 85, 90, 92~97, 102, 113~118, 121~123, 125~128, 130, 133, 135, 137, 138, 140, 146~

149, 157, 158, 165, 177, 201, 208, 318

せ

世阿弥	159
声阿弥陀仏	367
静玄	106
晴信	208, 209
盛品	297
施基皇子	38
関持盛	347
世尊寺行俊	126
善阿弥陀仏	367
善珠	12~15, 18, 19, 27, 40, 41
善信	262
善導	235
善法寺宋清	327
善鸞	238

そ

相阿	359
宗長	348
藺田守良	317
存覚	160, 161, 241, 242, 259
尊照	180
尊恵	290, 293, 347

た

醍醐天皇	57, 58, 62
泰信	7, 38
平兼隆	185
平清盛	180, 207, 208
平重衡	208
平重盛	206
平忠盛	349
平経高	216, 218, 219
平範輔	216, 218
平将門	62, 63, 188
平希世	57, 58
平宗盛	208
高倉院	180
高倉天皇皇女潔子	310
高野新笠	216

高原氏 145, 146, 149
 高原次利 145
 高原仲昌 146
 託何 293, 358
 武田 354
 武田時隆 184
 竹御所 92
 武夷鳥命 185
 武甕槌神 185
 多治比奇子 59, 60, 62
 橘奈良麻呂 156
 橘逸勢 18, 98
 橘三喜 161
 橘諸兄 47
 谷衛政 146
 太郎丸 59
 丹波維範 221

 ち

 仲恭天皇 187, 229
 重源 278, 279

 つ

 通海 190, 279, 281
 土御門有重 326
 土御門(安倍)有宣 391
 土御門天皇(院) 165, 187

 て

 出口延佳 272, 316, 318, 320
 寺沢広高 145
 天海 163

 と

 道鏡 48, 269, 270
 道賢 58
 藤五君 116
 等定僧都 4
 東照大権現 163
 同念 293, 294, 297
 道命 84
 土岐康行 347

土岐世保(康政) 348
 徳川家康 145, 163
 徳川慶勝 165
 徳大寺実基 195
 捕鳥部万 27
 舎人親王 9, 38
 鳥羽天皇(院) 201, 318
 豊臣秀吉 145, 163, 170

 な

 内阿弥陀仏 368
 中臣広親 185
 中臣広成 338
 中西直方 161, 162
 長野満高 347
 中原章久 213~215, 217, 218
 中原師員 183
 中原師季 214, 216~219
 中原康富 348
 中御門宣秀 393, 394
 長屋王 69, 81, 82, 155, 156

 に

 日蓮 191, 193, 196, 241~243
 仁明天皇 377

 の

 乃木希典 169

 は

 畠山 354
 畠山重忠 106
 畠山満家 348
 波多野朝定 187

 ひ

 彦坂孫三郎 146
 日野栄子 342, 343, 347
 日野康子 364
 兵衛佐局 96
 平田篤胤 162
 広橋兼宣 342, 348

ふ

伏見宮	168
伏見宮貞成親王	322
藤原氏	179
藤原朝成	72, 77
藤原有佐	72
藤原家光	216, 218, 220
藤原宇合	155, 156
藤原乙牟漏	6, 33
藤原雄依	10, 39
藤原穩子	57
藤原兼光	180
藤原兼宗	216
藤原鎌足	179
藤原淨岡	10, 39
藤原清貫	57, 58
藤原清衡	104, 108
藤原薬子	4, 17
藤原定家	92, 228
藤原定高	216, 217, 219
藤原定頼	138
藤原実氏	216, 217
藤原実基	216, 217
藤原季長	105
藤原管根	56
藤原純友	62
藤原孝綱	228
藤原忠通	180
藤原種継	4, 10, 11, 16, 17, 23, 33, 39, 51
藤原時平	56, 57
藤原利仁	204
藤原永手	50
藤原仲成	4, 17, 18, 20, 53
藤原仲麻呂	47
藤原成親	205
藤原信実	228
藤原秀郷	185
藤原秀衡	102~104, 107, 108
藤原広嗣	16, 27, 47~50, 77, 78, 80, 156, 157
藤原房前	156

藤原麻呂	156
藤原道長	64
藤原武智麻呂	156
藤原基衡	108
藤原百川	9, 42, 50
藤原盛兼	228
藤原師輔	166, 214
藤原師尹	214
藤原師長	205
藤原泰衡	103~108, 187, 188
藤原吉子	11, 12, 16~18, 22~25, 41, 53
藤原良継	50
藤原良房	25
藤原頼資	216, 219, 220, 228
藤原頼長	54, 157, 201, 205, 339
藤原頼業	114
ルイス・フロイス	354
文室宮田麻呂	18, 53

へ

平氏	88, 91, 97~99, 101, 102, 207, 209, 349
平城天皇	11, 12
平太郎	262

ほ

豊国大明神	163
北条氏	181, 184, 186~188, 242
北条貞時	108
北条時政	186
北条時宗	184
北条時頼	107, 108, 145, 189, 193, 242
北条政子	90, 94, 107, 186, 187
北条泰時	187
北条義時	107, 184, 187
法然	191, 192, 196, 233~236, 240, 260
細川	354
本牟智和氣	153
堀河天皇	311
堀親家	104
本條貴傳太	148

ま

松井石根 169
 松平頼恕 148
 円方女王 156
 満濟 344

み

三浦氏 189
 三浦泰村 188, 189
 水谷勝重 146
 道君首名 159
 源是輔 75
 源定通 216, 217, 219
 源実朝 181, 183, 187
 源扶義 75
 源高明 74, 339
 源尊秀 322
 源親長 166
 源融 72~74
 源俊房 215
 源通方 216, 217, 219
 源行家 91, 92
 源義家 94, 101, 185
 源義経 89~92, 97, 102~105, 108, 189, 208, 339, 353
 源義朝 95, 97~99
 源義仲 91
 源義広 91
 源頼家 92, 181~183, 188
 源頼茂 182, 183
 源頼経 183
 源頼朝 88~93, 95~109, 166, 181, 184~186, 189, 204, 339, 353
 源頼義 101, 103, 206
 美努忠包 57
 三宅家 138, 149
 三宅三郎兵衛 146
 三宅重成 129, 137, 138~142, 144, 146
 三宅行信 140
 神良種 59

む

無住 193, 236
 夢窓疎石 158, 168
 村上天皇 225
 紫式部 49

め

命延 19

も

以仁王 206
 本居宣長 64, 162
 物部守屋 27
 文覚 98

や

耶舎嘯多 15
 保明親王 57
 愷子内親王 367
 柳原資定 331
 箭括麻多智 154
 山田有信 168
 日本武尊 185
 倭姫命 272, 284
 山名氏 327, 354
 山名氏清 168
 山上船主 10, 39
 山部親王 33, 50, 51

ゆ

寛明親王 58

よ

善子内親王 312
 慶滋保胤 260
 吉田兼敦 364
 吉田兼俱 250
 吉田兼右 329, 330
 吉田兼好 194, 196
 慶頼王 57
 世保持頼 347

り	
隆寛	240
隆聖	278
龍熙近	272
良賢	126

ろ	
六条御息所	77
六角満綱	346
六角持綱	347

わ	
和田義盛	184, 188, 189
度会氏	276
度会家行	277
度会貞晴	352
度会雅見	284
度会光忠	278
度会行忠	275, 317

【事 項】

あ

愛染供	344
愛染明王	190
『鑑囊鈔』	354
赤城嶽	186
赤間関	97
赤間神宮	169
秋篠寺	13
秋田城	105
悪神	235, 240
悪霊	78, 80, 83~85
朝日寺	60
足利将軍	339, 340, 344, 352, 354
阿闍仏	17
阿蘇明神	191
阿蘇霊池	190, 376
悪鬼	235, 240, 242
熱田社	190, 257
『吾妻鏡』	89~94, 96, 98, 101, 103~107, 182, 188, 197, 204, 353
安濃津	290, 293~297, 301~303, 346~349, 353, 368, 370
『海土』	121
尼	289
阿弥陀ヶ峰	163
阿弥陀寺	295
阿弥陀如来	99, 235, 302, 359, 361
『綾北問尋鈔』	147~149
荒祭神	270
荒祭宮(殿)	322, 324, 331, 384
歩き巫女	37, 83, 85
粟田宮	93
安国寺・利生塔	168
安和の変	339
安養寺	370
安楽寺	56, 57, 64

い

生霊 76, 77, 161, 241
 石山寺 83, 354
 伊豆 88, 182
 出雲大神 154
 出雲杵築社 190
 伊勢 88, 302, 313, 340, 346, 347~351, 354, 355, 358, 359, 363, 366~368, 376, 386, 388, 390
 伊勢大神寺 269
 伊勢風社(宮) 190, 324
 伊勢講 355
 伊勢神宮 7, 12, 24, 35, 63, 88, 177, 178, 181, 187, 190, 213, 215, 216, 218, 219, 221, 226, 228, 261, 267~275, 277~283, 285, 294, 295, 298, 299, 302, 303, 306, 308~311, 313, 314, 316~318, 320~322, 324~333, 338, 340~345, 349, 351, 353, 355, 358~363, 365, 368~370, 374, 375, 383, 386, 388, 390, 393, 395~397
 伊勢信仰 355
 伊勢神道 268, 274, 277
 『伊勢太神宮参詣記』 368
 『伊勢太神宮神異記』 316
 伊勢御正体 298
 石上神宮 12, 179
 樞御馬 321, 322~324
 『一念多念文意』 240
 『一念多念分別事』 240
 一宮 55, 185
 巖島社 190
 一切経書写 11
 因幡堂 342
 稻村ヶ崎 91
 稻荷社 179, 226
 井上皇后陵 8, 39
 『猪隈関白記』 90, 314
 忌み 226, 227
 忌詞 269
 イルカ 208, 209
 慰霊 26, 27, 69, 152, 153, 157, 164, 165,

169~171
 違例 223, 227
 石清水八幡宮 62, 101, 177~179, 181, 190, 205, 212~214, 218, 219~221, 224, 226~229, 256, 271, 325~327, 340~342, 352, 387
 『石清水八幡宮史』 212
 石清水放生会 102
 淫祠邪教 164, 316

う

『上井覚兼日記』 168
 上杉禅秀の乱 168, 320
 宇佐神宮 50, 212
 宇佐神宮放生会 69
 牛 195, 200
 氏神 88, 101
 『宇治拾遺物語』 73
 『氏経卿引付』 344
 『氏経神事記』 321, 324, 326, 352, 353
 氏寺 268, 273, 276, 278, 279, 285
 宇治平等院 180
 雨宝童子 362, 364
 馬射 7, 35
 梅宮神社 179, 386
 占い 181, 184, 196, 201, 224, 311
 トい 5, 7, 35, 181, 224, 376
 孟蘭盆 99, 294

え

叡福寺 160
 英霊 169, 170, 171
 『永禄一品御記』 331
 荏柄天神社 61, 108
 穢気 221, 222, 396
 疫疾 186, 223
 疫神 177
 疫病 3, 7, 15, 32, 34, 47, 53, 80, 153, 156, 178, 233, 250, 373, 374, 392
 疫癘 194, 242, 243, 387
 江戸幕府 333
 蝦夷 16, 17, 204

穢物	384
円覚寺	167
炎旱	6, 35, 200, 376
『延喜式』	225, 247, 250, 253, 254, 267, 269, 273, 277, 306, 321, 338, 368, 375
円教寺	358, 363
怨恨	19, 52, 54
円明寺	301, 302
『円明寺縁起』	302
延暦寺	58, 166, 387
円隆寺	105

お

お岩さん	159
逢鹿瀬寺	269
王権	80, 159, 177~179, 191, 196, 197, 213, 220, 306, 316, 322~324, 328, 375
『往古過去帳』	347
『往生拾因』	260
往生伝	260
『往生要集』	260
応仁の乱	319
青海神社	147
大堰川	196
『大鏡』	72
大風	206, 321, 324, 375, 385
大倉御所	97
大谷廟	160
大帯姫廟神社	50
大槻庄	95
大原野神社	179, 226, 271
大御堂	97
大湊	294, 388, 390, 395
大神神社	179
大屋十箇村	95
大和神社	179, 386
お蔭参り	365
隠岐	242
男木島	145, 146
乙訓寺	4, 23, 33, 51
男山	178, 205, 212
鬼	16, 19, 37, 70~72, 85

鬼殿	71
『小野宮年中行事』	225
汚穢	220
御師	339, 352, 355
恩赦	8, 22, 33, 34
園城寺	105, 206, 387
怨親平等	165~167, 169~171
怨念	82, 84, 86
陰陽師	8, 36, 83, 85, 157, 177, 181, 183, 184, 186, 187, 193, 195, 196, 222, 233, 236, 260, 329, 391, 393
陰陽道	36, 37, 78, 79, 82, 181, 188, 192, 194, 238, 243, 268, 374
陰陽道祭	181, 184
陰陽寮	177, 180, 201, 206, 207, 221, 223, 224, 228, 233, 308, 309, 326
怨霊	3~5, 7, 10~20, 22~27, 32, 34~ 44, 46, 48, 50~52, 54~57, 59, 62, 64, 65, 69~71, 74, 76, 79~81, 83, 85, 86, 88~93, 95, 97, 99, 101, 103, 104, 106, 108, 109, 113, 115, 116, 153, 155~159, 163~165, 167, 170, 177, 184, 187, 194, 207, 208, 233, 242, 243, 249, 250

か

怪異	7, 25, 40, 51, 63, 177~192, 195, 196, 200, 202, 205, 206, 209, 212, 213, 219, 221~224, 227~229, 233, 250, 306 ~308, 310~314, 316~322, 324~333, 374~376, 387, 392, 396, 397
改元	374
カエル	188
鏡神社	44, 50, 157
鏡宮	49, 50
鏡明神	78, 80
鏡山	49
神楽	94, 180, 189
『過去現在因果経』	165
過去帳	289, 290, 293, 301
加持	36, 177, 180, 233
香椎宮(廟)	50, 160, 190, 258
鹿島社	106, 180, 185, 196

鹿島神宮寺 185
 柏葉の神印 362, 365
 春日社 179, 190, 326, 364, 386, 387
 片野庄 95
 『華頂要略』 95
 鎌倉 89, 91, 97, 98, 101, 103~105, 107,
 108, 182, 188, 193, 235, 320
 鎌倉権五郎神社 184
 鎌倉坂ノ下御霊社 186
 「鎌倉新仏教」 191, 196
 鎌倉幕府
 93, 101, 108, 181, 183, 184, 196, 341
 鎌倉廟 160
 鎌足木像 179
 竈 325, 386
 釜鳴 212
 神風 190, 191, 283
 上賀茂神社 205
 神觀念 47, 192, 234, 333
 雷 71, 205
 亀山御所 195
 賀茂社
 60, 179, 180, 190, 226, 271, 326, 387
 賀茂御祖社 376
 火雷火氣毒王 57
 火雷天神 58, 61
 烏 213, 217~220, 223, 319
 仮殿遷宮 178, 307~311, 314, 317, 319~
 321, 323~325, 330~333, 375, 376, 384,
 385, 395, 397
 河原院 72, 73
 川原寺 11, 12, 22, 41
 早疫 6, 376
 『管家御伝記』 55
 元興寺 387
 旱災 7, 35
 『漢書』 22
 『寛正三年造内宮記』 383
 願成就院 102, 186, 196
 勸進 301
 『感身学正記』 302
 勸進聖 290

官宣旨 224
 灌頂経法 7
 巫 255, 257
 神嘗祭 250, 309, 321, 376, 395
 観応の擾乱 324, 325
 観音 59, 83, 170, 251, 360, 362, 363, 369
 観音信仰 15
 早魃 7, 19, 34, 207, 373
 官卜 224, 308, 310, 330
 勘文 214
 『看聞日記』 168, 322, 326, 343

き

祈雨 24
 飢疫 26
 祇園感神院 61
 祇園社 61, 179, 341, 352, 386
 祇園天神 61
 記紀 154, 247
 飢饉 6, 7, 34, 47, 69, 152, 178, 194, 233,
 242, 243, 327, 387
 菊塚 148
 鬼気祭 37
 『儀式』 270
 鬼神
 18, 191, 192, 234, 235, 238, 239, 241, 243
 義人神社 163, 164
 北野 54, 59, 61, 64, 387
 『北野縁起』 59, 61
 北野祭 63, 64
 『北野社家日記』 60
 『北野聖廟縁起』 56~58, 62
 北野寺 59, 64
 『北野天神縁起』 46
 『北野天満自在天神宮創建山城国葛野郡
 上林郷縁起』 58, 62
 北野天満宮 44, 47, 54, 55, 58, 60~64,
 157, 168, 179, 342, 352
 北野曼荼羅 59
 北野万部経会 168
 北山本新庄 95
 黄蝶 188, 189

『吉記』	207
吉兆	183, 393
祈禱	35~37, 43, 54, 79, 94, 102, 179, 181, 183, 187, 190, 228, 233, 274, 317, 319, 326, 327, 339, 343, 344, 352, 353, 374~376, 391, 393, 395
祈年穀奉幣	228
祈年祭	321
木の丸殿	116
貴船神社	179
亀卜	51, 154, 217~219, 374
紀三井寺	359
客星	374
教王護国寺	298
『教行信証』	191, 234, 239, 243
梟首	103, 208
匈奴	16
『玉葉』	88, 98, 180, 207, 208, 271, 278, 363
清水寺	203, 369
『清水寺縁起』	202, 203
禁忌	267, 269, 270, 277
禁闕の変	322, 323
禁中	7, 40
金峰山	58, 344
禁裏	327, 386
く	
宮司	319, 330, 338
宮寺	217, 218
『宮寺縁事抄』	212
『愚管抄』	3, 88, 158, 208
公卿勅使	63, 347
『公卿補任』	204
孔雀経法	201
薬子の变	4, 17, 20
口舌	184, 186, 201, 222~224, 309, 310, 326
九想観	247, 248
岐神	55
久能山	163
首実検	103, 109

『愚昧記』	36
熊野	271, 339, 358, 363, 366
熊野権現	262, 366
熊野三山	360, 361, 363, 370
熊野新宮	295, 360, 365
熊野本宮	262, 359, 388
熊野詣	262, 344, 354, 359, 361, 366
雲井御所	117, 148
供養	32, 42, 54, 99, 100, 102, 107~109, 152, 166~171, 278, 279
供養塔	168
倉敷代官所	146
鞍馬寺	204
『鞍馬寺縁起』	204
厨川	103
蔵人所御占	177, 221
け	
悔過	7, 24, 40, 51
穢	5, 21, 24, 37, 185, 213~220, 223~ 227, 246~259, 261, 262, 269, 270, 273 ~276, 283, 309, 313, 314, 329, 332, 349 ~351, 362, 363, 365, 366, 376, 396
穢勘文	214
外記	214~216, 218, 219
『外宮子良館日録抜書』	325
『外宮遷宮記』	325
解謝	184, 189, 217, 374
解除	213, 227
潔斎	274, 284, 351, 354, 388
氣比神宮寺	270
氣比大神宮	370
『建久九年仮殿遷宮記』	307
『元亨釈書』	11, 13, 43
源氏	182, 183
『源氏物語』	77
験者	36, 37, 83, 85
『賢俊僧正日記』	340
顕彰	153, 159, 160, 163, 164, 170, 171
現世利益	37
『現世利益和讃』	240
『建内記』	352

- | | | | |
|-----------|-----------------------------------|-----------|---------------------------------------|
| 遣唐使 | 50 | 『古事記』 | 153, 246, 247 |
| 源平合戦 | 88 | 『古事記伝』 | 64, 162 |
| 『源平盛衰記』 | 122, 125 | 腰越 | 103 |
| 『源平鬪諍録』 | 122, 125 | 護持僧 | 344, 354 |
| 顕密体制 | 261 | 『古事談』 | 73, 77 |
| 顕密仏教 | 233, 235~237 | 『後拾遺和歌集』 | 137 |
| こ | | 五種不浄 | 247 |
| 小蘭笠神 | 62 | 御所 | 182~184 |
| 興亜観音 | 170 | 『故新伝』 | 127, 137, 141, 146, 149 |
| 『耕雲紀行』 | 297, 342, 345~349, 353, 368 | 『御成敗式目』 | 224, 396 |
| 弘正寺 | 301 | 五族協和 | 170 |
| 洪水 | 386 | 五大虚空藏法 | 327 |
| 皇祖神 | 178, 219, 306, 316, 374 | 五体不具 | 214, 225~227 |
| 『皇代記』 | 389 | 五大明王 | 61 |
| 皇太神 | 273 | 『御鎮座次第記』 | 268 |
| 『皇太神宮儀式帳』 | 268, 338 | 『御鎮座伝記』 | 267, 273, 274 |
| 『江談抄』 | 73 | 『御鎮座本紀』 | 268 |
| 光仁天皇陵 | 10 | 国家 | 179, 180, 192, 200~202, 206, 213, 221 |
| 興福寺 | 12, 40, 56, 180, 387, 395 | 『古道大意』 | 162 |
| 『興福寺奏状』 | 236, 260 | 護符 | 177 |
| 光明寺 | 297, 346, 369 | 五部大乘経 | 113, 115 |
| 光明真言会 | 299 | 御幣 | 228 |
| 高野山 | 122, 124, 160, 168, 180, 190, 257 | 御幣使 | 386 |
| 『高野大師御広伝』 | 22 | 『後法興院記』 | 391 |
| 高麗軍敵味方供養碑 | 168 | 『古本説話集』 | 73 |
| 高良大明神 | 205 | 昆陽寺 | 252 |
| 皇霊 | 18 | 『御遺告』 | 166 |
| 『五月一日経』 | 156 | 御陵 | 52, 93, 160 |
| 国忌 | 4 | 御霊 | 18, 52, 55, 99, 162 |
| 『五行大義』 | 36 | 御霊会 | 18, 53, 157 |
| 『国阿上人絵伝』 | 295, 358~369 | 御霊社 | 94 |
| 国学者 | 165, 171 | 御霊神 | 101 |
| 国府 | 116, 117, 119, 121 | 御霊信仰 | 64, 101 |
| 国分寺 | 10 | 御霊神社 | 44, 50, 53, 108, 157 |
| 『獄令』 | 21 | 『古老口実伝』 | 275, 276, 317, 375 |
| 護国経 | 18, 41, 156 | 衣川 | 103 |
| 護国神社 | 164, 170 | 金剛寺 | 170 |
| 『古今神学類編』 | 318, 320 | 金剛証寺 | 364 |
| 御斎会 | 16 | 金剛般若経 | 7, 11, 40, 374 |
| 五山 | 168 | 金光明経 | 16, 18, 59, 248 |
| 後三年の役 | 94, 101, 204 | 『金光明最勝王経』 | 40, 41, 58 |

『今昔物語集』 47, 70, 71, 73, 74, 77, 78,
80, 81, 82, 85, 86, 251~254
軒廊御卜 63, 177, 180, 181, 186, 200,
201, 206, 207, 214, 221, 223, 233, 250,
306~308, 310, 311, 313, 314, 316, 317,
321, 326, 327, 329, 330, 332, 386, 396,
397

さ

災異 6, 7, 15, 22, 33~35, 37, 40, 41, 43,
51, 79, 154, 177, 197, 206, 228, 374, 376,
377, 395
齋王 50, 306, 310, 312~314, 347, 367
齋戒 222
災害 6, 32, 34, 63, 80, 153, 154, 178, 196,
208, 215, 233, 373, 383, 387, 392, 397
齋宮 269, 306, 310~314, 353, 367
齋宮寮 310~313
西光寺 204
祭祀 26, 37, 38, 192, 194, 238, 250
祭主
308, 319, 329, 330, 332, 339, 353, 394
『最須敬重絵詞』 237
最勝王経 102, 248
西大寺 290, 298, 299, 387
『西大寺坊々寄宿末寺帳』 299
『西大寺末寺帳』 298, 303
『最鎮記文』 59, 60
坂出 113, 117, 127, 138, 148, 149
『さがみ川』 90
鷺 184, 317, 375
鷺祭 184
佐助稻荷 109
『左大臣家平野建立堂願文』 216
讃岐 113, 115, 117~119, 121, 122, 124,
126, 128, 135, 137, 138, 148
『実隆公記』 391
寒川神社 186
申楽 354
『山槐記』 207
『山家集』 117, 312
懺悔 14

三合 374
斬首 92
三節祭 363
山王七社 255
『三部長講会式』 16, 19, 24
三宝院 342
三万六千神祭 187
『山門奏上』 260
山陵 5, 8, 36, 38, 42, 51, 52
山陵使 207
参籠 278, 285, 301

し

シヴァ神 61
死穢 20, 225, 260
死骸 253, 326
『史記』 22
『職員令』 36, 38, 249
式占 374
式年遷宮 178, 307, 308, 310, 323, 325,
331~333, 375, 383, 385, 395
式盤 201, 222
死刑 20, 21, 24, 25, 109
諡号 39
地獄 84, 86
死魂 155
死罪 20, 21, 22, 102
自在天神 62, 63
死者 71, 152~155, 161, 162, 170, 240,
271, 388
寺社 196, 255, 384, 386, 393, 395
時衆 282, 289, 290, 293, 297, 303, 346,
347, 350, 358, 359, 366, 369, 370
『時衆過去帳』 289, 293
『時宗末寺帳』 367
地震 93, 184, 185, 189, 200, 202, 206~
208, 228, 229, 348, 373, 374, 376, 385,
388, 390~392, 396
地震勘文 392, 393
地震御祈 386, 391, 393
地震奏 207
紫宸殿 201, 221

- 地藏 297, 298
 『地藏十輪經』 239
 地藏堂 369
 『地藏菩薩靈驗絵詞』 298
 死体 194, 220, 226, 251, 366
 志太庄 91
 志多羅神 55, 61, 62
 七大寺 8, 34
 『七代上人法語』 293
 地鎮 36
 疾疫 201, 229, 271
 執金剛神 58
 疾病 392
 四天王寺 359
 志度 118, 121, 123~125
 志度寺 121
 死人 83, 188, 214, 215, 226, 389
 神人 193, 205, 235, 365
 『四分律』 19
 私幣禁断 267, 269, 271, 338~341
 志摩 388, 390
 邪気 37
 写経 39, 40
 灼甲 223
 『沙石集』 158, 193, 235, 256, 257, 261, 280
 社僧 235, 273
 舍利 100
 『十一面觀世音神呪經』 15
 十一面觀音 15, 364
 十禪師 255, 256, 259
 衆僧 8, 36
 住僧 60
 十陵四墓 160
 十六社奉幣 63
 寿永の乱 319
 儒教 6, 8, 25, 34, 35, 40, 43, 79, 239, 268, 285, 374
 修験者 157, 233
 呪術 14, 15, 27, 40, 41, 85, 177, 178, 192, 197, 233, 235, 237, 238, 243, 376
 呪詛 9, 14, 15, 42, 50, 193, 235
 守冢 5
 『出曜經』 19
 呪符 194, 233, 243, 363
 呪法 18, 83
 呪文 83
 首楞嚴院 260
 『春記』 375
 『春秋元命苞』 220
 淳仁天皇陵 8
 『春波楼筆記』 164
 成覚寺 278
 貞観御霊会 26, 54, 59
 仗議 216
 承久の乱 187, 229, 242, 319
 上宮寺 297
 將軍 92, 206, 327, 340~348, 351~355, 370
 將軍塚 201, 203
 相国寺 342
 招魂社 164
 正直 258, 267, 274
 清浄光寺 168
 成勝寺 93~95
 常勝寺山 384
 『正像末和讃』 192, 238, 240
 勝長寿院 97, 99, 109
 浄土教 196, 235, 260, 261
 聖徳太子廟 160
 浄土宗 193, 235, 367
 『浄土宗略抄』 234
 浄土真宗 160, 234
 浄不浄 361, 365, 366, 384
 承平・天慶の乱 44, 47, 55, 62~64, 166
 正法寺 358, 363, 369
 定法寺 84
 常明寺 276, 278
 浄妙寺陵 228
 称名念仏 192, 235
 『小右記』 251
 常隆寺 8, 9
 聖霊 19
 聖霊院 179

『性靈集』 23
 触穢 396
 『続日本紀』 7, 21, 22, 27, 35, 42, 47, 61,
 78, 154, 159, 248, 269, 270
 『続日本後紀』 24, 250, 376
 『諸社禁忌』 226, 254, 259
 『諸神本懷集』 160, 241, 259, 261
 諸陵司 38
 白峯 117, 122, 124, 133, 138, 148
 白峯宮 165
 白峯寺 114, 126, 127, 147
 『白峯寺縁起』 114, 126, 127, 147
 死靈 19, 37, 50, 54, 157, 161, 170, 241
 白幡 208, 209
 白鳩 328
 神意 63, 178, 200, 205, 206, 220, 224,
 227, 312
 神官 205, 235, 254, 257, 259
 神器 158, 322
 神祇 18, 40, 44, 47, 55, 63, 64, 73, 84,
 157, 192, 236, 267, 274, 341
 神祇官 5, 154, 177, 180, 181, 186, 201,
 205~207, 215, 221, 223, 224, 228, 233,
 308, 310, 329
 神祇観 234, 242, 243
 『新儀式』 214, 218, 225
 神祇信仰 88, 89
 神祇不拜 233~235
 神宮寺 216, 268~271, 273
 『神宮典略』 317
 神号 163
 賑給 6, 7, 33, 34, 374
 神光寺 294
 神護永法寺 296, 297, 368, 369
 神国 63, 209
 『神国決疑編』 272, 273
 神国思想 88, 89
 神護寺 367
 神護念仏寺 296, 366, 367
 真言 60, 64, 194, 243
 真言宗 53
 真言密教 58

神祠 55
 神事 222, 223
 神璽 322
 神事違例 308, 329, 330, 396
 神事不信 310
 賑恤 6, 8, 33, 34
 『真盛上人往生伝記』 297, 346, 368
 神泉苑 18, 53, 157
 神前読経 269, 271
 神葬祭 162
 神託 368
 『塵添盥囊鈔』 208
 神道 37, 194, 247, 248, 251, 261, 262,
 272, 275, 316, 341, 374
 『神道五部書』 267, 268, 275, 277, 285
 『新任弁官抄』 312
 親王將軍 181
 心御柱
 178, 307, 309, 310, 317~320, 324, 331
 『心御柱記』 319
 神廟 59
 神仏 109, 193, 236, 275, 343, 387
 神仏習合 61, 180, 269, 271
 『新編相模国風土記稿』 94
 神馬 317, 322, 340, 353
 神明社 355
 『新葉集』 345
 神慮 318~320, 346, 365, 385
 神靈 10, 12, 13, 17, 18, 38, 52, 157, 160,
 203, 308, 323, 377
 人霊 50, 157

 す

 水害 69
 出拳 6
 彗星 200, 201, 374, 395
 崇福寺 58
 菅原寺 12
 誦経 6, 8, 34, 39, 40
 厨子 60
 鈴鹿山 346
 『図像抄』 61

崇道社 52, 53
 崇道天皇陵 8, 10, 11, 39
 崇徳院院宣 140, 146
 崇徳院社 147
 崇徳院法華堂 96, 97
 崇徳院御影堂 93, 95
 崇徳院陵 117
 修法 36, 54, 157, 194, 243
 住吉神社 179
 諏訪社 186
 諏訪明神 191

せ

征夷大將軍 88, 95, 202~204, 341, 353
 星合 374
 清浄 224, 247~249, 256, 258, 262, 267,
 269, 274, 275, 277, 284, 313, 360, 361,
 364, 366, 376, 396
 『勢陽雜記』 301, 302
 西来寺 297, 346
 清涼殿 57, 58
 施餓鬼 168, 169, 171
 関ヶ原の戦い 145
 摂家將軍 181
 殺生禁断 102
 妹尾郷 96, 97
 善鬼神 240, 242
 遷宮 345, 374, 375, 397
 仙宮院 363
 『遷宮例文』 375
 前九年の役 101, 103, 204, 206
 善光寺 370
 戦死者 152, 153, 164, 167, 170, 171
 禅宗 167, 367
 『撰集抄』 293
 千手観音 360, 363
 専修念仏 192, 194, 233, 235~237, 240
 千僧供養 166
 浅草寺 186
 践祚大嘗祭 269, 270
 占断 330, 396
 前兆 183, 206, 327, 392

千度詣 185
 泉涌寺 180
 占文 207, 221, 223, 330
 宣命 38, 57, 228, 229
 戦乱 63, 178, 196, 197

そ

僧 51, 255, 276, 278, 289
 造宮使 384
 『僧綱補任』 56
 僧衆 299
 僧都殿 75
 『喪葬令』 37, 249
 『宗長日記』 348
 僧尼 273~275, 277, 282~285, 362
 僧尼拝所 282
 宗廟 178, 179, 190, 196, 213, 216, 217,
 219, 272, 277, 306, 308, 310, 316, 318,
 320, 325, 340, 361, 374
 僧侶 44, 54, 157, 160, 252~254, 259,
 267~271, 275, 276, 278~281, 352
 雙林寺 358, 359, 370
 『雙林寺縁起』 359, 361, 365
 宗麟原供養塔 168
 『統神皇正統記』 324
 属星祭 183, 187
 祖神 216
 祖先崇拜 47
 卒塔婆 59
 祖霊 162
 『尊号真像銘文』 241
 『尊卑分脈』 47, 78

た

大安寺 4, 13, 212, 387
 大威徳明王 61
 大覚寺 24
 『台記』 201, 339
 大宮司 308, 321, 344, 345
 大外記 217
 『大元神一秘書』 268
 大光明寺 168

大極殿 92
 醍醐寺 190, 279, 340
 泰山府君 184, 228
 泰山府君祭 37, 181, 187
 大自在天 61
 大慈寺 228
 大赦 22, 156, 374
 大乘戒 18
 大乘經 132, 138
 大嘗祭 270
 大神宮司 329
 『大神宮諸雜事記』 269, 338, 339
 大葬 185
 大長寺院 104
 『大日經疏』 268
 大日如來 301
 『大日本史』 48
 大般若經 14, 40, 205, 278, 298, 374
 大般若經転読 51, 187, 279, 386, 387
 台風 206
 大仏 163
 大仏殿 388
 『太平記』 159
 『太平記絵巻』 159
 『太平御覧』 220
 大宝院 302
 大宝律令 159
 大菩薩巫女 189
 大魔縁 113
 内裏 177, 180, 181, 201, 205, 221, 251,
 273, 277, 322, 327, 374
 内裏泉 148
 高雄山寺 23
 多賀宮 282
 多賀国府 105
 高松城 145
 高天の原 162
 高家神社 148
 ダキニ天 205
 託宣 25, 59, 60, 63, 258, 274, 278, 279,
 298, 302, 316, 362
 太宰府 6, 55, 64, 78

太政威徳天 61, 58
 崇り 3, 5, 6, 7, 16, 21, 24~27, 35~38,
 40, 41, 43, 51, 53, 64, 69, 71, 72, 79, 80,
 82, 94, 107, 153~155, 161, 182, 207,
 215, 224, 241, 249, 250, 270, 311, 338,
 376, 386, 387
 達谷窟 204
 龍田神社 179
 多宝院 158
 魂 77, 162
 『玉襪』 162
 『玉藻集』 147
 田宮寺 276
 『田邑麻呂伝記』 203
 多聞天 204
 誕生寺 388
 壇ノ浦 99, 207, 208
 檀林寺 58

ち

『親長卿記』 359
 千木 178, 317, 318, 320, 321, 385, 396
 血の宮 148
 忠魂碑 152
 中尊寺 104
 中尊寺金色堂 108
 『中右記』 311
 忠霊塔 152
 『長阿含経』 268
 『長講金光明経会式』 16, 17
 『長講仁王般若経会式』 16, 17
 『長講法華経後分略願文』 16
 『長講法華経先分發願文』 16
 『重修淡路常盤艸』 8, 9
 朝廷 63, 78, 88, 102, 103, 178, 180, 181,
 184, 187, 200, 208, 227, 233, 271, 306,
 308, 314, 316, 317, 321, 322, 323, 325,
 326, 329, 330, 332, 375, 387, 396, 397
 調伏 14, 85
 長命寺 148
 長楽寺 370
 勅祭 44

鎮護国家 101
 鎮魂 19, 37, 41, 44, 54, 55, 57, 59, 64, 69,
 79, 80, 83, 89, 93, 95, 99~102, 104, 108,
 109, 152, 157, 159, 167, 233, 242
 鎮祭 374
 鎮謝 36, 207
 鎮守府將軍 204
 鎮撫 37, 40, 43, 79, 82, 83

つ

追尊天皇 38, 39
 追悼 171
 『通海參詣記』 190, 279, 280
 津観音 302
 月次祭 321, 386
 筑紫観世音寺 47
 月読宮 190
 月読神 270
 鼓岡 119, 120~123, 125, 127, 148
 津波 207, 369, 373, 388, 390, 395
 鶴岡八幡宮 90, 94, 101, 102, 109, 182,
 183, 185, 187~190, 196, 242
 鶴岡放生会 102
 『徒然草』 194, 196

て

『帝王編年記』 11
 敵味方供養 167
 敵御方供養塔 109, 168
 天 26, 191, 222, 234
 天覚寺 279
 転経 7, 40
 『伝教大師消息』 23
 伝教大師将来台州録 166
 天狗 233
 天災 3, 14, 69
 『伝述一心戒文』 17~19, 54, 157
 天神 60, 61, 63, 64
 天神地祇 18, 61, 238, 242
 天曹地府祭 187
 天台 60, 61, 64
 天台宗 53, 58

天台真盛宗 297
 天地災変祭 187
 天智天皇陵 10
 転読 7, 40, 51
 天然痘 156
 天皇 154, 155, 158~160, 162, 164, 251,
 267, 313, 319, 322, 329, 338, 341, 369,
 374, 393
 天王寺 83
 天王の社 126, 127
 天皇陵 37, 160, 219, 249, 377
 天変 374
 天変地異 32, 156, 242, 328
 天変地動 394
 天変地妖 386
 天魔 94
 天満 62
 天満大自在天 54, 55, 57, 61, 157
 天満天神 58
 『天満宮安楽寺草創日記』 55, 56
 『天満宮託宣記』 59, 61
 天文密奏 374
 天龍寺 158

と

道教 268
 東宮(春宮) 7, 11, 40
 『道賢上人冥途記』 58
 東獄 98
 東寺 166, 386, 395
 等持院 342
 等持寺 342
 鬮諍 184, 186, 201, 223
 盜賊 35
 東大寺 4, 58, 177, 180, 196, 279, 387
 『東大寺衆徒参詣伊勢大神宮記』
 278, 279, 284
 東大寺大仏 180
 東大寺大仏殿 278
 『東大寺要録』 47, 48, 78
 『藤沢山過去帳』 289
 藤沢上人 290

多武峰 160, 179, 190, 228
 多武峯寺 179
 闘乱 186, 201, 223
 読経 26, 42, 74, 156, 207, 216, 268, 271,
 274, 277, 278, 284, 285
 『都玉記』 102
 特赦 7
 読誦 19, 54, 84, 85, 374
 徳政 22, 33
 徳治主義 6~8, 34
 刀祢 60
 鳥羽殿 206
 豊受神 361, 273
 豊受大神宮 161, 190, 279
 『とはずがたり』 280, 351
 頓證寺 126, 127

 な

 『内宮子良館記』 388, 395
 内供奉十禪師 16
 『内外二宮櫪御馬沿革之勘文』 321
 内道場 16
 直島 113~115, 118~128, 130, 133, 135,
 137, 138, 140, 142~146, 148, 149
 『直島旧跡巡覧図会』 127
 長屋王の変 81
 那智 360, 361, 363, 388
 鯨 208
 奈良坂 208
 『業資王記』 90
 『南海治乱記』 145
 楠社 165
 南都十大寺 166

 に

 新嘗祭 273
 丹生川上神 6, 35
 丹生川上神社 179
 仁王般若経 16, 18, 41, 59
 二階大堂 104, 106
 西野山古墓 202
 二十五三昧会 260

二十二社 44, 54, 55, 64, 179, 181, 186,
 196, 201, 212, 233
 二所詣 182
 日露戦争 169
 日光東照宮 163
 日食 200
 『日本紀略』 5, 22, 24, 57, 61, 249, 324
 『日本後紀』 4, 7, 9, 10, 12, 21, 22, 35, 41,
 42, 51, 52, 69, 157
 『日本三代実録』 53
 『日本書紀』 27, 153
 『日本靈異記』 20, 81, 82, 155, 156
 如意輪観音 363
 如住院 346
 如法経 102
 仁和寺 113
 仁王会 179
 仁王経 40, 201, 271, 374, 387

 ね

 祢宜 178, 185, 190
 『涅槃教』 191, 234
 念仏 234, 236, 237, 240, 252, 260, 277,
 283, 284, 346, 358, 369
 念仏寺 367
 念仏宗 236

 の

 能 159
 乃木神社 169
 荷前使 160
 荷前奉幣 38, 250
 野沢井 126, 127, 148
 野宮 313
 呪 194, 243

 は

 羽蟻 188, 212, 326
 臺 3, 26, 36, 37, 41, 42, 44, 48, 50, 51, 78,
 79, 85, 156, 161, 241
 白山 193, 235
 幕府 88, 89, 101, 105, 109, 146, 178, 181,

182, 184~187, 196, 213, 322, 331, 332,
375, 397
幕府祈禱 188
筥崎宮 190
箱根 88
箱根両権現 182
箸墓 72
長谷寺 251
八社奉幣 386
八幡 60, 88, 228, 376
八幡宮 101, 183, 204, 206, 217, 219
『八幡愚童訓』 206, 256~259, 280
八幡護国寺 180
八幡神 63, 88, 205, 206, 212, 213
八幡大菩薩 208, 258
鳩 182, 183, 196, 205, 206, 329, 330
『花園天皇宸記』 180
隼人 16, 69
流行神 164
祓 247, 277, 350, 352
バラモン教 61
ハレー彗星 201
『般若三昧経』 191, 234
般若経 13, 40
般若寺 208
般若心経 24, 40, 278, 387

ひ

比叡山 17~19, 83
東向観音寺 61, 62
光物 188, 189, 212, 326
『鼻飯書』 280
日別朝夕大御饌祭 215
毘沙門天 204
聖 205, 283, 296, 362, 363, 366, 368, 369
『常陸国風土記』 154
人魂 189, 212
非人 299, 303
百座仁王講 227
『百四十五箇条問答』 260
百万塔陀羅尼 166
白蓮寺 370

『百練抄』 188, 313, 314
百怪祭 181, 184, 189
廟 48~50, 59, 64, 160, 179, 219, 220
憑依 73, 85, 86, 255
病気 6, 9, 13, 35, 63, 154, 196, 200, 224,
229, 233, 313, 314, 330, 343, 355
病事 186, 201, 223, 326
廟所 163
廟靈 49
日吉社 179, 254, 255, 259, 387
平泉 103, 104, 108
比良宮 59
比良山 53, 59
平野社 179, 214~216, 218, 226, 387
広瀬神社 179
広田神社 179, 386

ふ

『風雅和歌集』 114
福岡庄 96, 97
福原遷都 180
巫覡 267, 316
封戸 6
巫蠱 50
賦算 366
武士 88, 109
武士道 169, 171
諷誦文 73, 74
不浄 21, 24, 222~224, 227, 247, 248,
251, 257~262, 274, 295, 317, 358, 360,
362, 384, 388, 395
不浄観 247
藤原仲麻呂の乱 42, 166
武神 185
不信不浄 329, 330
『豊前国風土記』 48, 49
『扶桑略記』
12, 13, 40, 47, 48, 56, 58, 73, 78
不断光明真言 290
仏教 9, 17, 19, 20, 39~41, 43, 44, 54, 61,
74, 79, 80, 82, 83, 85, 88, 157, 160, 165,
192, 238, 239, 241, 247, 248, 251, 256,

260~262, 267~269, 272, 274~277, 279, 284, 285, 289, 350, 374	
服忌令	226
仏舎利	59
仏神	83, 235, 237
仏法	100, 166, 239, 260, 267, 270, 273, 274, 277, 280, 349
不動不断護摩	344
不動明王	361
『風土記』	154
太占	154
船江荘	308
不予	311
『文安二年内宮仮殿遷宮記』	384
文正の政変	320
『文保記』	226, 267, 276, 313
文祿・慶長の役	145, 168
へ	
平安京	53, 71, 180, 202, 203
兵革	185, 186, 188, 189, 201, 222, 223, 392
兵起	201
『平家物語』	47, 78, 92, 94, 114, 122, 125 ~127, 201, 202, 205~207, 209, 348
『平家物語』(延慶本)	122, 123, 125
『平家物語』(長門本)	122, 123, 125
『平戸記』	220
兵事	376
平治の乱	88, 98, 101
平城京	8, 34, 81, 155
平泉寺	107
幣帛	6, 35, 38, 55, 62, 267, 338, 376
幣物	185
兵乱	188, 327, 374
蛇	195, 196, 200
変異	160, 177, 183
変化観音	14, 15
ほ	
法会	251
『宝基本記』	267, 268, 274

宝篋印陀羅尼經	167
宝劍	322
保元の乱	20, 88, 90, 92, 93, 95, 100, 101, 113, 128, 166, 318
『保元物語』	20, 94, 113, 114, 118, 121~ 123, 126, 127, 148, 201, 209
『保元物語』(鎌倉本)	118, 121
『保元物語』(京都大学付属図書館蔵本)	118, 119
『保元物語』(古活字本)	120, 121
『保元物語』(金刀比羅宮本)	119, 120
『保元物語』(半井本)	114~118
亡魂	155, 168, 189
宝治合戦	188, 189
宝珠庵	370
放生会	102
『北条九代記』	185
法成寺	251
法成寺総社	190
『法曹至要抄』	226
『宝物集』	363
奉幣	4, 7, 24, 35, 44, 51, 63, 79, 85, 156, 179, 201, 207, 216, 228, 250, 271, 326, 328, 331, 332, 374, 376, 377, 396, 397
奉幣使	7, 35, 341
法楽	59, 268, 274, 279, 284, 285
法楽舎	281, 283~285
『保暦間記』	90~92, 103
法隆寺	58, 387
法輪寺	84
亡霊	73, 74, 78
『北山抄』	225
卜定	223, 224, 228, 367
『卜事略決』	36
卜筮	25, 185, 192, 217, 238, 376, 377
卜占	25, 181, 221, 377
『法華経』	12, 16~19, 22, 24, 40, 41, 59, 84, 260
墓所	43, 56, 57, 64, 69, 79, 124, 202, 358
菩提山	279
『法句経』	19
法華三昧	48

法華堂	109
法勝寺	201, 207
『発心集』	254, 256, 259
法相宗	77
本願寺	242
本宮	360
本地	236
本地垂迹	161
本地仏	364
『本朝世紀』	55, 61, 62
『本朝文粹』	73
『梵網経』	13
『梵網経古迹記』	13
『梵網経略抄』	13
『本願薬師経鈔』	14
ま	
埋経	268
蒔田庄	186
『枕草子』	77
松尾神社	179, 386
松山	114~117, 119~121, 123, 124, 126, 130, 131, 137, 138, 148
松山津	127
松浦廟	48, 79
『松浦廟宮先祖次第并本縁起』	48, 50
松浦明神	48, 49, 78
『満濟准后日記』	344, 348
『萬葉集』	154
み	
御占	189, 205
御卜	216~218, 220
御影	59, 189
御影堂	95, 96, 160
巫女	13, 94, 177, 193, 235, 362
神輿	62, 63, 72
三島社	185, 196
三島明神	182
『水鏡』	10
禊	247
密教	53, 297

南御所	97
耳川の戦い	168
御裳濯河	282, 283, 295, 360, 362, 363, 366
宮川	283, 349, 350, 351, 353, 363, 387
三宅家文書	141
妙暁寺	8
妙光寺	346
名神	6, 7, 35, 63
明法博士	216
三輪	256, 257
民間陰陽師	83
む	
無怨寺	27, 48, 49
夢想	278
『紫式部集』	49
無量光院	103, 105
『無量寿経』	268
無量寿寺	302
室町將軍	344
室町殿	327, 386
『室町殿伊勢參宮記』	342, 350, 351
室町幕府	320
め	
明応地震	348, 369, 388, 390, 395
『明月記』	90, 92, 228
鳴動	82, 94, 160, 178~181, 185, 190, 200~203, 212, 220, 228, 229, 317, 322, 324, 325, 331, 332
『明德記』	168
明德の乱	168, 341
女木島	145, 146
も	
蒙古襲来	167, 190, 191, 268, 284, 285, 324, 325
蒙古の碑	168
毛越寺	105
物恠	24, 374, 376
物忌	179, 180, 222~235, 254~257, 259

～261	
物の怪	40
	や
薬師経	14, 40
薬師悔過	10
薬師寺	53, 387
薬師信仰	22
薬師如来	14
『薬師瑠璃光如来本願功德経』	14
八雲神社	108
屋敷神	161
八嶋寺	11, 43, 52
八嶋陵	10, 11, 43, 52
社	50, 161, 241, 326～328
『康富記』	348, 386
八面神	62
夜刀の神	154
病	5, 39, 41, 43, 79, 235, 250, 365
山田	290, 294～297, 301, 303, 351, 352, 360, 366, 367, 369, 370
八の力原	91
『倭姫命世記』	267, 284
	ゆ
由比ヶ浜	186～189, 388
幽魂	26～28, 165
幽霊	102, 159
遊行	290, 295, 347, 350
『遊行三十一祖京畿御修行記』	293, 297
遊行上人	289, 290, 293, 358
『遊行上人縁起絵』	282, 284, 350, 368
遊行聖	283
湯の峰温泉	388
夢	154
	よ
妖言	25, 267
妖祠	155
養照寺	170
遙拝	277
『陽復記』	272, 318

永福寺	103～105, 107, 109, 184
『横川首楞嚴院二十五三昧起請』	260
与佐宮	361
『吉田家日次記』	295, 364～367
吉田神社	179, 386
吉田神道	163
吉野	256, 257, 322
『吉野御事書案』	158
『義持公参宮記』	342, 343, 348, 350, 352
予兆	160, 177, 188, 196, 197, 201, 207, 306, 316, 318, 319, 324, 327
黄泉	162, 246, 247
頼朝法華堂	189
	ら
来迎寺	370
雷電	228
癩病人	283
雷鳴	187, 229
落雷	317
	り
離宮院	312
六壬式占	221
律宗	290
律衆	289, 298, 299, 301, 303
『立正安国論』	193, 242
律令	157, 247, 338
『吏部王記』	62
龍	16, 19, 208
龍王動	208
龍宮	121
流星	188, 189
靈安寺	9, 10, 24, 43, 52, 53, 157
陵戸	37, 249
陵寺	42, 43
『梁塵秘抄』	115, 121, 126
寮占	222, 224, 308, 310, 330
靈山寺	15, 369
両部神道	268
陵墓	5, 37, 38, 43, 147, 202, 207, 249, 250
『両峯問答秘鈔』	366

- | | | | |
|--------------|---|---|-------------------------|
| 陵霊 | 5, 38, 160, 249, 250 | | |
| 「旅順軍歿露軍将卒乃碑」 | 169 | | |
| 旅順白玉山納骨祠 | 169 | | |
| 旅順表忠塔 | 169 | | |
| 臨時奉幣 | 38, 250, 331 | | |
| | | る | |
| 『類聚国史』 | 36 | | |
| 『類聚三代格』 | 21, 248 | | |
| 『類聚神祇本源』 | 268, 277 | | |
| 流罪 | 21, 22, 102, 234 | | |
| | | れ | |
| 霊 | 7, 13, 16, 17, 19, 26, 27, 32, 41, 44, 54,
56, 59, 69~76, 78, 82, 84, 85, 94, 100,
109, 158, 208 | | |
| 霊気 | 37 | | |
| 霊鬼 | 36, 73 | | |
| 霊駿 | 94, 101, 316 | | |
| 霊魂 | 3, 4, 24~26, 28, 32, 37, 43, 48, 57,
64, 69~71, 77, 79, 89, 99, 101, 102, 104,
106, 108, 109, 153~155, 157, 162, 165, | | |
| | | | 189, 220, 233, 240, 250 |
| | | | 霊魂観 |
| | | | 69, 153 |
| | | | 霊神 |
| | | | 182 |
| | | | 霊庇廟 |
| | | | 158 |
| | | | 霊廟 |
| | | | 204 |
| | | | 連歌 |
| | | | 354 |
| | | | 蓮台寺 |
| | | | 170 |
| | | ろ | |
| | | | 籠僧 |
| | | | 276 |
| | | | 鹿苑院 |
| | | | 342 |
| | | | 『論語』 |
| | | | 240 |
| | | わ | |
| | | | 若狭比古神願寺 |
| | | | 270 |
| | | | 若宮 |
| | | | 101 |
| | | | 和光同塵 |
| | | | 361 |
| | | | 和讃 |
| | | | 238 |
| | | | 鶯宮 |
| | | | 185, 196 |
| | | | 忘れ貝 |
| | | | 131 |
| | | | 豌豆瘡 |
| | | | 6 |
| | | | 罌塚 |
| | | | 148 |



◎著者略歴◎

山田雄司 (やまだ・ゆうじ)

1967年 静岡県生まれ
1991年 京都大学文学部卒業
1998年 筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科修了。博士(学術)
現在 三重大学人文学部教授

〔主要業績〕

『崇徳院怨霊の研究』(思文閣出版, 2001年)
『跋扈する怨霊』(吉川弘文館, 2007年)
『忍者文芸研究読本』(共編著, 笠間書院, 2014年)

おんりょう かい い い せ じんぐう
怨 霊 ・ 怪 異 ・ 伊 勢 神 宮

2014(平成26)年6月10日発行

著 者 山 田 雄 司
発行者 田 中 大
発行所 株式会社 思文閣出版
〒605-0089 京都市東山区元町355
電話 075-751-1781(代表)

印 刷 株式会社 図書 同朋舎
製 本 印刷

©Y. Yamada

ISBN978-4-7842-1747-2